

地方創生交付金活用事業(令和2年度実施事業)進捗状況

No.	種別	交付対象事業		本事業における重要業績評価指標(KPI)および実績 (上段:指標、下段:実績)						令和2年度の進捗状況の説明	結果(計画期間終了事業分)、目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当部局 (担当課所)		
		国への申請事業名 (事業費R2年度)	事業概要	開始前	R1増加分	R2増加分	R3増加分	増加分累計						
1	推進交付金	世界に売り込めCoolAkitaプロジェクト ・総事業費【2自治体】19,869,265円(9,934,632円)【秋田市】1,737,923円(868,961円) ()は交付金	【秋田港大型クルーズ船誘致等事業】クルーズ船の受入体制の強化(事業主体:秋田県、秋田市)	①加工食品・日本酒の輸出金額(地方創生交付金事業を活用して実施した商談会やバイヤー招聘等で成約した金額) ②クルーズ船寄港回数 ③クルーズ船内メニューへの県産食材販売金額	開始前 ①600万円 ②15回 ③44万円	R1増加分 ①200万円 ②11回 ③456万円	R2増加分 ①200万円 ②3回 ③200万円	R3増加分 ①200万円 ②2回 ③300万円	増加分累計 ①600万円 ②16回 ③956万円	①令和2年度は中国、台湾、フランスを対象に輸出事業を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、現地への渡航が困難であったため、オンライン商談を活用し販路拡大を目指した。 ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、クルーズ船の運航は休止となったが、クルーズ再開に向け、安全・安心な受入体制の整備を進めた。 ③令和2年度は、クルーズ船の寄港予定に合わせて、パンフレットの増刷、乗船PRの実施を計画したほか、東京での商談会を企画し、県産食材の販路拡大を目指したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全ての事業を中止することとなった。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 ①新型コロナウイルス感染症の影響により各国において外食産業が大きく停滞しているが、家庭内需要をターゲットに商談を行い、県産品の販路拡大を目指した。 ②令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、クルーズ船の運航が休止となったことから、目標は達成できなかった。 ③令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、全ての事業を中止し、実績がないため、目標は達成できなかった。 【課題、今後の対応】 ①新型コロナウイルス感染症の影響による輸出入の減少が大きな課題となっているが、巣ごもり消費や健康志向など消費者ニーズの変化をくみ取り、新たな市場に商品売り込んでいく。 ②多様な旅客ニーズに対応し、魅力ある寄港地とするため、官民連携組織の「あきたクルーズ振興協議会」を核とした受入態勢の強化、充実を図る。 ③業務用食材を扱うバイヤー等を対象に、首都圏において商談会を開催し、観光と食を一体的に売り込んでいく。	観光文化スポーツ部(観光振興課)		
2	拠点整備交付金・推進交付金	創業支援拠点整備事業 ・総事業費【拠点整備交付金(ハード)】37,950,000円(18,975,000円)【推進交付金(ソフト)】1,626,306円(813,153円) ()は交付金	【中小企業振興基本条例推進事業(創業支援拠点整備事業)】秋田市中心市街地活性化基本計画の区域に存する空きテナントを賃借の上、秋田市創業支援拠点施設「チャレンジオフィスあきた」を移転整備し、同施設に創業支援室、コワーキングスペース、ビジネス書籍を置く起業家交流室を整備する。	①開業率(年間法人市民税新規納税義務者数/前年度法人市民税納税義務者数) ②施設における創業件数 ③施設における創業相談件数	開始前 ①3.8% ②4件 ③60件	R1増加分 ①0% ②0件 ③0件	R2増加分 ①0.4% ②3件 ③40件	R3増加分 ①0.2% ②1件 ③10件	R4増加分 ①0.2% ②1件 ③10件	R5増加分 ①0.2% ②1件 ③10件	増加分累計 ①1% ②6件 ③70件	令和2年4月1日、秋田市創業支援拠点施設「チャレンジオフィスあきた」を秋田市中心市街地にリニューアルオープンした。施設内に起業家交流室やコワーキングスペースを設置するとともに、常駐するインキュベーションマネージャーによる支援や起業家の交流、育成を行った結果、開業率や創業件数等の増につなげた。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 土崎から中心市街地に移転し、立地環境等の創業環境が向上したことにより、開業率等の増加につながっており、今後も増加が見込まれるため。 【課題、今後の対応】 チャレンジオフィスあきたを拠点として、創業支援のための事業等を展開することにより、更に開業率や創業件数等のアップを目指す。	産業振興部(商工貿易振興課)
3	推進交付金	ビジネススタートアップ支援事業 ・総事業費43,705千円 (ソフト事業経費)39,796千円 (ハード事業)3,909千円	創業支援拠点施設「チャレンジオフィスあきた」を新たに設置し、起業家交流室を主会場に、起業に向けたプロセスを交流・育成・起業・成長の4つのフェーズに分け、支援する。各フェーズに応じた支援プログラムを切れ目なく実施することにより、多くの起業家を創出・育成する。 (A)交流フェーズ:学生や社会人等の交流支援など(毎月のセミナー開催/起業家対談や大学生向け交流イベント等) (B)育成フェーズ:起業を志す仲間との起業学習支援など(ワークショップ/ビジネスコンテスト向け勉強会/起業スクール開催等) (C)起業フェーズ:開業に向けた準備支援など(事業計画作成/クラウドファンディングプレゼン会/資金調達相談会/開業相談等) (D)成長フェーズ:開業後のフォローアップなど(経営コンサルタント派遣/融資斡旋等の事業拡大/ファンドによる支援)	①開業率(年間法人市民税新規納税義務者数/前年度法人市民税納税義務者数)(%) ②創業支援拠点施設における創業件数(件) ③創業支援拠点施設における創業相談件数(件) ④各フェーズにおけるイベントやセミナー等への参加者数(人)	開始前 ①4.16% ②1件 ③69件 ④70人	R2増加分 ①0.10% ②6件 ③40件 ④3,230人	R3増加分 ①0.20% ②8件 ③50件 ④855人	R4増加分 ①0.30% ②10件 ③50件 ④3,305人	増加分累計 ①0.60% ②24件 ③140件 ④7,390人	秋田市創業支援拠点施設「チャレンジオフィスあきた」の起業家交流室を主会場に、新たな起業家の掘り起こしや起業に関心のあるかたの交流促進および育成を行った。 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部のセミナーは行うことができず、参加者数は目標値に届かなかったものの、参加者からは好評であり、交流促進につながった。 【開催したイベント】 1 あんぶカフェ(あんといれぶれな一ずカフェ) 起業家および起業予定者がテーマに沿って語り合う場を設ける 2 AETa(Akita Entrepreneurs Talk) 起業家による対談や学生も交えた座談会を開催する 3 ビジネス書だけの読書会 ビジネス書が好きなかたがおすすめのビジネス書を持ち寄り語り合う場を設ける	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 起業に関心のあるかたの交流促進および育成が開業率等の増加につながっており、今後も増加が見込まれるため。 【課題、今後の対応】 チャレンジオフィスあきたを拠点として、創業支援のための事業等を展開することにより、更に開業率や創業件数等のアップを目指す。	産業振興部(商工貿易振興課)		